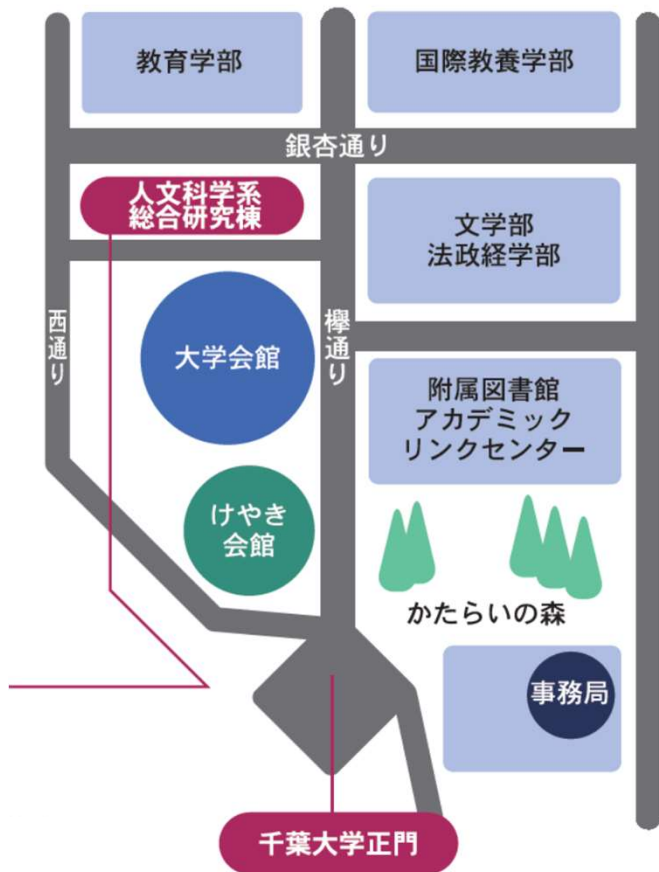


国際ワークショップ 中東・アジアにおける 研究ネットワークの確立： 第1回研究拠点代表 会合

日時：2月7日（火）

会場：千葉大学大学院人文科学系総合研究棟（大学院人文公共学府）2階マルチメディア会議室／ZOOMによるオンライン



https://www.chiba-u.ac.jp/e/about/location/nishi-chiba_campus.html

使用言語：英語

お申込み:

<https://forms.gle/MkfWPjeKjKRmS3Ys9>



13:30 開会の辞：

酒井 啓子（千葉大学）

基調講演：

藤原 帰一（千葉大学）

民主化革命の再考：：東南アジア、東ヨーロッパ、中東

発表：

ラルビ・サーディキー Larbi Sadiki (中東国際問題評議会、カタール) 2011年と2019年の「アラブの春」概観

ムスタファ・ハリリ Mostafa Khalili (千葉大学)

『緑の運動』から『女性、生命、自由』へ：イランにおける抗議運動の発展における継続と変化
酒井 啓子（千葉大学）

アラブ地域の歴史における抗議運動：ワタンを求めて



講師

藤原 帰一 (千葉大学国際高等研究基幹特任教授・東京大学名誉教授・未来ビジョン研究センター客員教授)



専門は国際政治・比較政治・東南アジア政治。1979年東京大学法学部卒業、1984年同大学院博士課程単位取得中退、フルブライト奨学生としてイェール大学大学院博士課程に留学。東京大学助手、千葉大学助手・助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て、1999年から2022年3月まで同大学院法学政治学研究科教授。フィリピン大学アジアセンター客員教授、米国ウッドローウィルソン国際学術センター研究員、ジョンス・ホプキンス大学高等国際研究院客員教授、東京大学未来ビジョン研究センター長などを歴任。主な著書には『戦争を記憶する』、『デモクラシーの帝国』、『平和のリアリズム』(第26回石橋湛山賞受賞)、『国際政治』、『戦争の条件』、『不安定化する世界』、『「正しい戦争」は本当にあるのか』などがある。『朝日新聞』に「時事小言」を連載中。『映画のなかのアメリカ』、『これは映画だ!』など、映画に関する著作もある。

ラルビー・サーディキー LARBI SADIKI (グローバル問題中東評議会(カタール)シニア・フェロー)



民主化研究・政治移行の専門家。2020年までカタール大学にて国際関係、政治学を担当。1997年オーストラリア国立大学にて博士号取得、英エグゼター大学にて教鞭を取る。主著「the Search for Arab Democracy (2004年)の他、*Routledge Handbook of the Arab Spring: Rethinking Democratization* (2016), as well as *Routledge Handbook of Middle East Politics: Interdisciplinary Inscriptions* (2021).など、「アラブの春」や中東政治のハンドブックの編集を行っている。2021年より、Brill社から雑誌Protestを発刊、編集長。

モスタファ・ハリリー MOSTAFA KHALILI (千葉大学 グローバル関係融合研究センター 特任研究員)



同志社大学にて博士号取得。2022年まで、上智大学JSPSポスドク研究員。主たる研究テーマは社会動員、マイノリティ集団におけるナショナリズムで、手法としては文化人類学的アプローチを志向する。専門地域は、主としてイラン、イラク、トルコの境界領域。

酒井 啓子 (千葉大学教授・グローバル関係融合研究センター長)



専門は、中東地域政治(主としてイラク)、国際関係論。アジア経済研究所研究員、在イラク日本大使館専門調査員、カイロ・アメリカン大学客員研究員、東京外国語大学教授を経て、現職。「イラクとアメリカ」「9.11後の現代史」など、著作多数。共編著として、*Iraq Since Invasion: People and Politics in a State of Conflict* (Routledge, 2020)がある。

主催：JSPS研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「中東を軸とした非欧米社会の路上抗議運動研究ネットワーク構築：アジアの結節と比較(課題番号JPJSCCB20210002)」(研究代表：酒井啓子)

◆問合せ：千葉大学グローバル関係融合研究センター内事務局
Email: glblcrss*chiba -u.jp (*を@に代えてご利用ください)